



学校教育目標：郷土「山寺」を愛し、社会に役立つ人間の育成

二学期終業式児童生徒代表の言葉 中学3年生 土居 融和さん

私は二学期に2つのことについて力を入れました。1つ目は、美化プロジェクトの活動です。資源運びや掃除の呼びかけをしました。資源がたくさんあったり、縛っているひもが切れたりしたこともあったけれど、みんなで協力すると、やりがいのある楽しい仕事になりました。また、私はプロジェクトのリーダーだったので、プロジェクト全体の年間計画の実施を行いました。最初のうちは忘れずできるか不安だったけれど、先生と何度も相談しながら、企画を実施しました。ただ、企画の反省を忘れていて、先延ばしにしてしまったこともあったので、その後は気をつけるようにしました。

2つ目は学習です。私は英語の形を覚えたかったので、たくさん音読をしました。難しい文法の文は、大きな声で何度も音読したり、その文法を使った英文を自分で考えたりしました。繰り返し練習するうちに、パターンが見えてきて、どんどん英語がわかるようになりました。テストでも、「あっ、この英文にはあの文法が使われているな」と気づけるようになりました。私は、もともと書いても、覚えることが苦手なので、音読は自分に合った学び方だと感じました。

これらのことを見かし、三学期はみんなと協力したり、自分に合った方法で勉強したりして、より充実した生活を送りたいです。

校長式辞より

【あきらめないで挑戦】

2学期は、山寺物語や磐司太鼓、運動会など、みんなで力を合わせて挑戦する場面がたくさんありました。友達や上級生・下級生と助け合いながら、山寺小中学校の団結力はぐんと深まりました。困っている友達に声をかけたり、支え合ったりする姿に、みんなの成長を感じました。時には、思うようにいかず悩むこともありましたが、考え、工夫し、挑戦を続ける姿から「あきらめないで挑戦することの素晴らしさ」を学びました。



株式会社植松電機の植松努さんは、ロケット開発に挑戦し続ける中で、「どうせ無理」という言葉をなくしたいと語っています。何度も失敗してもあきらめず挑み続けたその姿勢は、私たちに大きな勇気を与えてくれます。私たちも、「どうせ無理」をやめて、一歩踏み出す心を大切にしていきましょう。挑戦する気持ちが、新しい未来を切り拓いていきます。

【山寺探究・感謝の心】

地域の方々に支えられていることを、改めて感じた学期もありました。朝、横断歩道で車が止まってくれたときに自然にお辞儀をする姿は、とても素敵な「ありがとう」でした。敬老の日には地域のおじいさんやおばあさんに手紙を書いたり、人権の花を届けたりしました。アルミ缶を集めて車椅子にかえて「サニーヒル山寺」に贈る活動もありました。みんなの優しさが地域の人の役に立ち、喜んでもらえました。

さらに、小学1・2年生は山寺探検を通して「町博士」を目指し、小学3・4年生はきざはし会の花輪さんから本格的なガイドの技術を学びました。小学5・6年生は動画入り

のパンフレットを制作し、仙台市でのPR活動を通して山寺の魅力を県外へ発信しました。中学生は外国の映画監督に英語で山寺を紹介するウェルカミングツアーも行い、地域での学びを世界へとつなげています。

みんなの山寺を愛する気持ちや行動は、地域の方はもちろん、世界の人たちの心にも届いています。これからも山寺の魅力を発信し、地域社会に貢献していきましょう。

【自分で考えて動く力（自立と自律）】

小学生は「自分で考えてできること」を増やし、中学生は「自分の行動を自分でコントロールする力」を伸ばしてきました。自分で起きる、片付ける、勉強するなど、毎日の小さな積み重ねが、みんなを大きく成長させています。委員会活動や生徒会活動では、知恵を出し合いながら考え、実行しました。予定通りに進まないときもありましたが、「どうすれば良いのだろう」と考え、振り返りを行うことで次の挑戦につなげました。これからも、自分で考えて行動する力をさらに磨いていきましょう。

【世界から注目される山寺】

最後に、みんなに紹介したいことがあります。1つ目は、ジャパンタイムズが日本の誇れる場所として「The Japan Destination Region 2025」（ザ・ジャパン・タイムズ・デスティネーション・リージョン 2025）に山形市が選ばれたこと。2つ目は、アメリカのナショナルジオグラフィックが選ぶ「2026年に行くべき世界の25選」に山形県が選ばれ、その中でも山寺が紹介されたことです。これは、みんなが暮らす山寺が世界から注目されている、とても誇らしい出来事です。みんなもその誇りを胸に、山寺をよりよくするためにできることを考え、行動していきましょう。小さな力でも、みんなの力が集まれば大きな力になります。

【3学期に向けて】

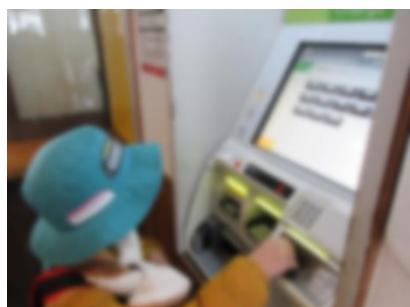
3学期も、サンボマスターの歌のように「できないっこないをやらなくちゃ」という気持ちを忘れず、「どんな時もあきらめないで、君ならできるんだ、どんなことも」という言葉を胸に、さまざまなことに挑戦していってください。

みんな一人ひとりが「世界に一つだけの星」です。その輝きを大切にしながら、仲間と力を合わせ、山寺の未来をさらに素晴らしいものにしていきましょう。

明日から冬休みです。元気に、楽しく、そして充実した冬休みを過ごしてください。

12/4（木）小学1,2年生：町探検②～町博士になろう～

生活科の授業で、地域の公共施設に関する学習を行いました。山寺駅と山形駅を見学し、公共の乗り物の乗り方やみんなのための施設の工夫などを見つけてきました。山寺駅で切符を購入し、駅員さんの仕事も見学してきました。



11/12(金) 12/12(金) 小学生：本の読み聞かせ

11月12日(金)の第5回読み聞かせでは、地域学校協働活動推進員の遠藤まき子様、保護者の篠原悠介様、藤山泰子様よりご協力いただきました。また、12月12日(金)の第6回読み聞かせでは、地域学校協働活動推進員の遠藤まき子様、保護者の石川藍様、布施夕子様よりご協力いただきました。

地域・保護者の皆様にご協力いただくことで、子どもたちは本を読むことがますます大好きになっています。今後も、子どもたちが多くの本に触れ、豊かな感性や想像力、読解力、表現力を育む大切な時間となるよう、取り組みを続けてまいります。



12/2(金) 全校生（代表児童生徒が寄贈）：給食感謝の会

日頃からお世話になっている高嶋ひとみ先生をはじめ、給食センター、たいようパン、城西牛乳、山形炊飯協同組合など、給食に関わる皆さまへ感謝の気持ちを込めてメッセージをお贈りしました。

高嶋先生には、給食だけでなく、図書に関することや校舎内の環境整備、さらには3・4年生の珠算の授業など、多岐にわたりお世話になっています。いつも元気いっぱいに声をかけてくださいり、応援してくださることで、私たちは大きな力をいただいています。心より感謝申し上げます。



12/11(木)・18(木)中学3年生：高校受験に向けたストレスマネジメント

中学3年生はいよいよ高校進学に向けた三者面談の時期を迎えています。自分の夢や進路実現に向けて、どの高校が適しているのかを、保護者の方や担任と相談しながら真剣に考えています。高校入試の合格を目指し、学校での学習はもちろん、家庭での学習にも力が入っているのではないでしょうか。

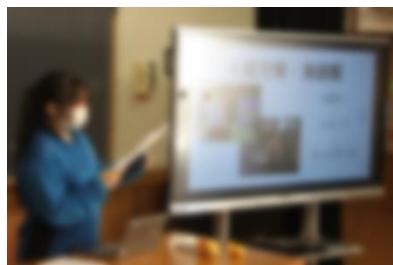
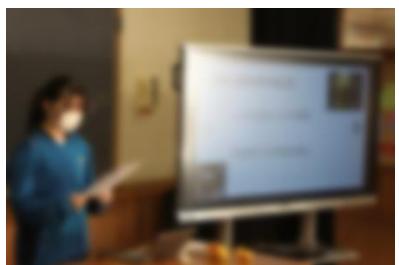
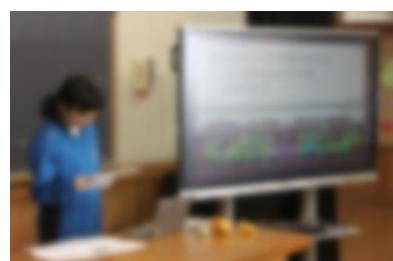
このような緊張や不安の高まる受験期を乗り切るために、養護教諭の枝松初音先生と、県スクールカウンセラーの區藤良先生から、ストレスへの対処法や受験期の規則正しい生活について学ぶ機会がありました。心身の健康を保ちながら、落ち着いて日々を過ごすことが、実力を最大限に発揮するための大切な土台となります。受験生の皆さん、志望校を決めるまでも悩む日々でしょうが、健康第一に受験生活を送ってください。



12/5（金）中学3年生：総合的な学習の時間の発表「山寺未来会議」

12月5日（金）、中学校3年生による総合的な学習の発表会「山寺未来会議」を開催しました。地域学校協働活動推進員の遠藤まき子様をお招きし、修学旅行で学んだことも取り入れながら、これから山寺地区をより良くするためのアイディアを提案しました。

発表の中では、遠藤様から質問やアドバイスをいただき、自分たちの考えをさらに深めることができました。また、今後は中学校3年生のアイディアを山寺観光協会で協議していくだけるという嬉しいお話をありました。私たち小中学生にできることを考えながら、少しづつ行動に移していきたいと思います。



山寺小中学校にサンタさんがやってきました！



山寺コミュニティセンター
一 事務局長小幡さんより
サンタのプレゼント♪



ツリーの飾り
は真理子先生
の手作りで

技能長の鈴木真理子先生と技能技師の齋藤充裕先生が昇降口にイルミネーションを飾り、ツリーを作成してくださいました。毎朝早く学校にきてくださり、雪はきをしてくださったり、教室の暖房をつけてくださったりしています。暖かい教室に登校できることに心から感謝です。

12/12(金) 中学3年生：卒業に向けて紅花染めコサージュ作り

12月12日（金）、講師として大山るり子先生をお招きし、中学校3年生が卒業式で身に付けるコサージュの作り方をご指導いただきました。今回は紅花染めに挑戦し、それぞれが思い思いの模様を美しく染め上げました。

次はいよいよ花の形に縫い上げていく工程です。ひと針ひと針を進めるたびに、これまでの中学校生活を振り返り、自分の積み重ねてきた努力をかみしめながら、心を込めて素敵なコサージュを完成させてほしいと思います。

なお、この日の活動には、山形県県民文化芸術振興課の小沼孝太様、地域学校協働活動推進員の遠藤まき子様にもご協力いただきました。多くの方々に温かく見守っていただいていることに感謝しつつ、紅花と山寺での体験が、皆さん的心にいつまでも残る素敵な思い出となることを願っています。



12/23(火) 有志教職員によるクリスマススペシャルコンサート



昨年に引き続き、2学期の山寺小中学校のみんなの頑張りを称えるため、有志教職員バンド「DERA」によるクリスマススペシャルコンサートが開催されました。サプライズで始まったコンサートに、子どもたちの笑顔が一段と輝きました。山寺小中教職員バンド「DERA」の先生方は、それぞれ自主練を重ね、勤務時間後の放課後に合奏練習に取り組んでくださいました。最高のクリスマスプレゼントをありがとうございました。ブラボ～！！

【出典】<https://sustainable.japantimes.com/destination-region-2025>(2025年12月22日閲覧)

ザ・ジャパン・タイムズ・デステイネーション・リージョン

ジャパンタイムズが The Japan Times Destination Region 2025 として、

山形市(山形県)を選定 ~ジャパンタイムズが紹介する日本の訪れるべき場所を発表~

株式会社ジャパンタイムズキューブ(代表取締役:末松弥奈子)は、持続可能な地域の実現に取り組み、世界に発信するに値する日本の自治体をジャパンタイムズが認定、紹介する「The Japan Times Destination Region」を創設し、その第1回目の The Japan Times Destination Region 2025 として、山形市(山形県)を選定いたしました。The Japan Times Destination Region は、藻谷浩介氏をアドバイザーとして迎え、以下の 3 つの視点から、持続可能な地域を実現するためにさまざまな取り組みを展開し、それが世界に発信するに値する自治体を選定します。

1. 地域の文化的・歴史的背景を大切にし、次世代に伝える努力をしている
 2. 地域資源を活用した持続可能な地域経済・コミュニティのあり方を追求している
 3. これらの取り組みが、日本・世界の地域課題の解決に貢献する可能性がある

今回、The Japan Times Destination Region 2025 に選定された山形市は、独自の食文化や地下水の熱源としての利用などの他、人口 25 万人規模の都市でありながら、山形国際ドキュメンタリー映画祭の開催や日本で唯一のユネスコ創造都市ネットワークの「映画」部門への加盟、全国でもユニークな芸術系大学と連携し、歴史的建造物をリノベーションした拠点施設でクリエイティブな取り組みを推進するなどの文化創造都市であると同時に、教育や子育て支援、「歩くほど幸せになるまち」をコンセプトとしたまちづくりなどにも長期間にわたって取り組んでいる点を評価して、Destination Region に選定いたしました。

The Japan Times (ジャパンタイムズ) について

The Japan Times は、1897年(明治30年)に創刊された、日本で最も歴史のある英字新聞です。1996年にホームページを開設。現在はソーシャルメディアも活用し、日本のいま、そして未来を、世界に向けて発信しています。読者は、国内在住の外国人に加えて、世界各国の政府高官やシンクタンクはもちろん、各国のメディアにも日本に関する信頼できる情報ソースとして活用されています。過去のアーカイブは、海外の大学や公立の図書館などで、日本やアジアの歴史研究に活用されています。

【出典】日本政府観光協会ホームページより

PRESS RELEASE
報道發售資料

日本の魅力を、日本のチカラに。
JNTO 日本政府観光局

※ 本リリースは国土交通記者会・交通運輸記者会に配布しております。

2025年10月22日

山形県が米有力旅行メディアで「2026年に行くべき世界の旅行先25選」に選出！

- ・米有力旅行メディア『ナショナル ジオグラフィック (National Geographic)』が2025年10月21日(火)に発表した「Best of the World 2026 (2026年に行くべき世界の旅行先25選)」に山形県が選出されました。
 - ・山形県は、古くからの伝統と神秘的なアウトドア体験ができる旅行先として選出されています。
 - ・日本政府観光局(JNTO)では、今回の選出を弾みに、更なる地方誘客の促進に向けて、引き続き日本各地の魅力の発信に取り組んでまいります。

アメリカ有力誌「ナショナルジオグラフィック」が発表した「Best of the World 2026 (2026年に行くべき世界の旅行先 25 選)」に山形県が選出された。人混みを離れて古くからの伝統と神秘的なアウトドア体験を楽しむことができる評価された。山形県について、「東京から北へ約 300 キロに位置する山形県では別世界のような静寂のひとときを体験できる。蔵王山のスキーチャンプと温泉、銀山温泉、山寺、出羽三山は、どれも忘れられない旅行先となる。2 月には米沢市の上杉神社に 1000 を超える雪灯籠がともり、8 月初旬には山形市で「山形花笠まつり」が開催される」と解説されている。